

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人社団 康晏堂		
事業所名	グループホーム「東海の里」	ユニット名	笑笑館
所在地	宮崎県延岡市水尻町255番地1		
自己評価作成日	平成29年9月16日	評価結果市町村受理日	平成29年12月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JijyoOvsCd=4590300028-008&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年10月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所理念「今を喜ぶ」を具現化すべく、入居者様に安心して生活していただき、できる限りお一人お一人、それぞれのペースで過ごすことができるよう、声かけや対応を工夫している。
 ・その方に対し、良い対応支援があった時にはスタッフに周知し、統一したケアが行えるように努めている。
 ・利用者様の要望に対して、スピーチロックをしない。今すぐにできないことに対しても説明を行い理解を得るように心がけている。
 ・身体拘束を行わない努力と工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体が医療法人で、24時間医療連携体制が整っていることは、利用者や家族の安心につながっている。特に主治医は、2～3日におきにホームを訪問し常に利用者の健康状態の把握に努めている。また、重度化や終末期に向けた対応に関しても、主治医自ら家族に十分な説明を行い納得のもと方針を共有している。研修会の参加や資格取得に向けた支援も積極的に行うなど職員の育成にも力を入れていることで、職員の離職率が低く設立当初からの職員も多い。季節行事の取組も豊富で、子どものラジオ体操が敷地内で行われるなど、地域に開かれたホームとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った介護を心掛けスタッフと話し合いあるいは会議の議題に取り上げ実践に生かしている。		雇い入れ時の研修や定例会などで、理念の共有を図ったり、理念に沿った介護ができていないかの話し合いを行っている。敬老会などの催し物や、日頃のふとした喜びの中で理念である「今を喜ぶ」を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回の行事が催されており、これに地域の方が参加され又当施設を訪問して下さることもあり、交流の機会を持っている。		自治会に入り地域の情報を得たり、春は焼肉会、夏は子ども会のラジオ体操の会場としてホームを開放をするなど、地域の小学校や、他事業所を含めた地域住民とのつながりができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節行事、推進会議を通して第三者を招き交流を図っている。具体的な支援の方法等の発信はない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容はわからない。管理者が参加している。		行事表に沿って利用者の近況報告を行い意見をもらいサービス向上につなげるよう努めている。会議内容が職員に浸透していないことから、今後は職員の参加や議事録回覧などを検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係者と密に連絡を取り、協力関係を作る努力を行っている。		いつでも気軽に相談できる関係ができている。最近では、徘徊者のケアについて適切なアドバイスをもらうなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会議において身体拘束に対する理解を深めており、職員は十分理解していると思われる。門扉の施錠を行っているが見守り体制が十分な時は開放するように心がけている。		研修を重ね身体拘束に対する理解を深める努力をしている。現在、立地条件からやむを得ず門扉の施錠を行うことがあるが、職員はできる限りの見守りケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し虐待防止について学ぶ機会を持ち、ホーム内で虐待が見過ごされないように認識をもって支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し学ぶ機会を持ち、職員全体が理解を深めるよう努力している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応。十分な説明を行い、理解納得を図っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を素直に聞き入れ、反映できるよう職員間で話し合い努力している。		家族からは、面会時に直接意見や要望を聞き、その都度管理者へ報告、意見が反映できるよう心掛けている。また、利用者からは普段の会話や様子から、意向をくみ取れるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議にて現在の施設の状況・問題点を出し合って意見交換を行っている。		職員会議を通して、意見や要望が出しやすい場作りに努めている。職員も一つの問題に対して、納得いくまで討論を重ね答えを導いている。出た意見については、業務に反映し働く意欲につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生等が充実しており、緊急連絡網も整っている。職場環境の向上に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士会主催の研修、医師会主催の認知症の勉強会等定期的に参加を促している。認知症実践者研修は1年に1、2人順番で参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他同業者が参加する場や会議等に参加するよう呼び掛けと案内をしている。医療と福祉の連携会議には交代で参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後の不安を取り除くよう積極的に話しかけ、コミュニケーションをとり、安心できる環境作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安なこと、困っている事等傾聴し信頼関係を作るよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様ご家族の要望に応えられるようユニット会議を開き職員全体で話し合いをしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが人格を尊重し家庭的な生活が送られるよう努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも気軽に面会が出来、会話が出来る空間を作り、本人様の状態など細やかにご家族に報告している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院にお連れし馴染みの場所を回り昔話を聞く機会を作っている。	利用者や家族から、生活歴やなじみの関係を聞き取り、情報をもとに行きつけの美容室や、ドライブに行くなど支援している。また、日頃から、なじみの人や場所を思い出してもらおうよう言葉かけも工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の相性や性格を判断し座席を配置する等工夫している。また、ご利用者同士がぶつからず言い合いにならないよう職員が間に入る等の工夫をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が訪ねて来られたら、現在の心境やご家族の体調などの話を聞く。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中から、ご利用者様の希望や意向を把握できるよう心掛けている。		日頃の支援の中で、言葉や表情などから把握できるように努めている。また、意思表示が困難な方については、家族と話し合いながら日々の支援に生かせるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を把握し、会話の中に生かせるよう努めている。生活歴を十分把握し入居後のケアをより良いものにするよう心掛けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノート、経過記録の閲覧、記入を行い、勤務交代時にスムーズに現状の把握が出来るよう心掛けている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の定例会議のあと、ユニット内でケアの仕方、対応方法等を話し合い、意見を交換することで処遇の統一を図っている。		日々のケアの中から、状態の変化などを十分把握しケアプランに反映したり、家族からは、面会時などに要望や意見を聞き、本人本位の介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送りで夜の様子を共有し、経過記録で情報交換している。また、ユニット会議をすることでケアの確認ができています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の希望や状況に合わせて、職員の配置を工夫したり支援し合っている。多機能化とは言えない状況。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の思いや希望があればなるべく沿うように取組んでいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関を主体にかかりつけ医としている。体調不良時など適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の要望により法人の母体である医院をかかりつけ医としている。主治医の2～3日置きの訪問、状態観察は、利用者や家族の安心につながっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異状があれば他の職員へも声掛けしホームの看護師に連絡、迅速な対応を心掛けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療ソーシャルワーカーと情報交換できる関係作りを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方については、十分にご家族に説明しながら方針を共有している。	契約時に必ず看取りの指針の説明を行っている。状態の変化に応じて、主治医を交え話し合いを持ち家族からも同意を得ることで、方針の共有に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	異常があればバイタルチェックを行い状況を管理者に報告、指示をもらう。急変時に使用できるAEDを備えており、全員使えるように勉強している。最近研修の機会が少ないので再度研修が必要。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。避難経路もご利用者様と一緒に歩いて確認している。緊急時の連絡網も作っている。	近隣に住民が少ないこともあり、避難訓練に参加をってもらうことはできていないが、隣接の他事業所との災害時の連携や地元消防団との協力体制はできている。		

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、尊敬の心で接するように努めている。声掛けにも十分気遣いしている。		接遇研修を行い、プライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。利用者と親しい関係の中でも、慣れ合いにならぬよう、礼儀を忘れず尊敬を持って対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の方を支援するときは、本人様の希望や思い、意見を聞き自己決定できるように働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中でも居室で休みたいご利用者は休んで頂いている。レクリエーションの声掛けはするが参加するかどうかは自由である。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の服、更衣できる人は自ら洋服を選び更衣されています。更衣が脱ぎ着できない方には、脱ぎ着がしやすい服を選んでいきます。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理強いせず、出来る方にはテーブルを拭いていただいたり、自分の食事を運んでもらったりして頂くことがある。		利用者の重度化に伴い、準備やかたづけは難しくなっているが、テーブル拭きなどしてもらっている。また、行事食などで季節感を味わえる工夫にも努めている。	食事が楽しみなものになるよう、工夫をすることで、豊かな食の可能性につながるよう期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、食事量に応じて体調の確認も行っている。また、活動の後には水分補給、飲み込みの悪い方にはミキサー食など食事形態を変えて摂取して頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施してもらっている。自分で出来ない利用者様には介助にて行い、口腔の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間帯を決めて声掛けを行っている。場所がわからない方はトイレまで誘導し、なるべく自分で排泄できるよう分かりやすい声掛けで支援している。	身体状況や認知症状況を観察しながら、支援方法を決めている。排せつ記録から声掛け、誘導を行うなどトイレで排せつできるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる前に食事、水分、運動などに気を付けている。また排便チェックシートを利用し、便秘の方がいる場合には、看護師と相談し、薬の調整を行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回、排泄の失敗時などはシャワー浴などご利用者の身体の状態に気を付けながら、柔軟に支援している。	ゆず湯など季節感を出し入浴を楽しむ工夫がされていたり、入浴確認ボードを活用し、拒否があっても入浴漏れの無いよう工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠っていただけるように日中は起きて頂くことを基本にしているが、日中でも居室で休みたい方は休んで頂き、車椅子で過ごされる方は、身体を休めるためにソファで横になっていただくこともある。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を確認し作用、副作用、禁止食材などを確認している。変更があった場合は申し送りシートで共有し、服薬時は職員2人で確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや新聞折りなど、気分に沿って出来る事を手伝ってもらっている。職員が多いときはドライブへ出かけたり、車椅子のご利用者様は外へ散歩に出掛けたり個々の出来る範囲で支援を行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物などに出掛けることがあるが、重度のご利用者様が増えてきており、庭や近所を散歩できるように支援している。	日常的に近隣の店舗へ買い物に行ったり、北川を展望できる敷地内を散歩することは、利用者の気分転換につながっている。また、家族の協力のもと外出の機会が持てるよう声掛け、お願いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームではお金の預かりを行っておらず、介護や日常生活に必要なものは家族に相談し、購入。その領収書の写しを請求書に添付して請求を行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所内に設置し、電話したいときは掛けることができる。 間違い電話をしない為に、職員が電話を掛ける等の支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節を感じられる掲示や飾りつけを不快にならない程度に行うように心掛けている。 また、エアコンを使用し、適温で過ごせるように配慮している。		季節を感じる飾りつけがなされており、室温や空調管理にも配慮されている。また、安全に過ごせるよう、ソファやテーブルの配置にも気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの席は決まっているが、自由に移動され、他者と話をしたり、テレビを見たりしている。 共用空間にはソファや畳の番台、庭にはベンチが有り、思い思いに過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族が使い慣れたものなどを気軽に持ってこられ、自由に配置されているので、居心地良く過ごせている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札を下げ、トイレにはトイレ表記をつけて分かりやすいようにしている。			